



On Saturday

On Saturday I went to look at the lights. And from(from) my mom and dad told me thet(that) we wur(were) going. Thee I got on my cot. Then we wet(went) to look at the lights. On the the strets(streets) we sol(saw) ol(all) uv(of) the pepul(people) thet(that) wur(were) on that stret(street), hud bels(bells), andujuls(angels), and cande(candy) cungs(canes). And I sol(saw) lights most uv(of) the time. And I ...

(この作文の評価 英文和訳)

この作文は、小学校1年の作文としては良い例である。主となるできごとを様々なできごとで詳しく記述している。作文は彼女の個人的な話として組み立てられている。これはいわゆる「起きてから寝るまで作文」で、できごとの起こった順番に書かれている。しかし、一つ的话题をずっと書くことができている。そういう意味でこの作文は、小学校1年の基準を満たしていると考えられる。(以下、略)

4 通知表を見て

アメリカの学年は、9月から始まり5月に終わる。ミネソタ州セントポール市では、通知表は秋と春に Summary Report(資料3・4・5)が、そして学年末に End of Year Report(資料6)が保護者に渡される。通知表はコンピュータ入力され、2部プリントアウトし、1部は保護者に渡し、1部は指導要録のように学校で保管する。小学校では三者懇談会を行い、その場面で通知表を渡しながら懇談が行われる。通知表の最初には、Academic Improvement Plan(学力向上計画案)という欄があり、小学校2年生の場合、math, reading, writing(算数、読み、書き)のそれぞれについて、授業内・授業外・家庭・その他で、どのような学力向上が必要であるかが示され、実際に進歩の度合いが見られるかどうか署名欄がある。秋・春2回、評価が行われ評価基準で合格点が取れない場合にどう補習をしたり家庭で学習機会を持ってもらったりするのか具体的に話し合いがなされる。学年中にその項目について成果が見られた場合はよいが、そうでない場合は、夏休みにサマーセッション(夏補習)に参加しなくてはならなくなる。さらにそのサマーセッションにおいても成果が見られない場合は、たとえ小学生であっても落第がある。実際、昨年度もホストファミリーの担当したクラス(小2)で1人落第者がいたそうである。評価基準はそれほど厳格であり、合格ラインに満たない者に対して、教師・保護者が責任を持って指導していくシステムになっているのに驚いた。

以下に、小学校2年生の通知表の実物資料と、その一部の内容紹介を示したい。